

2 今月の星空

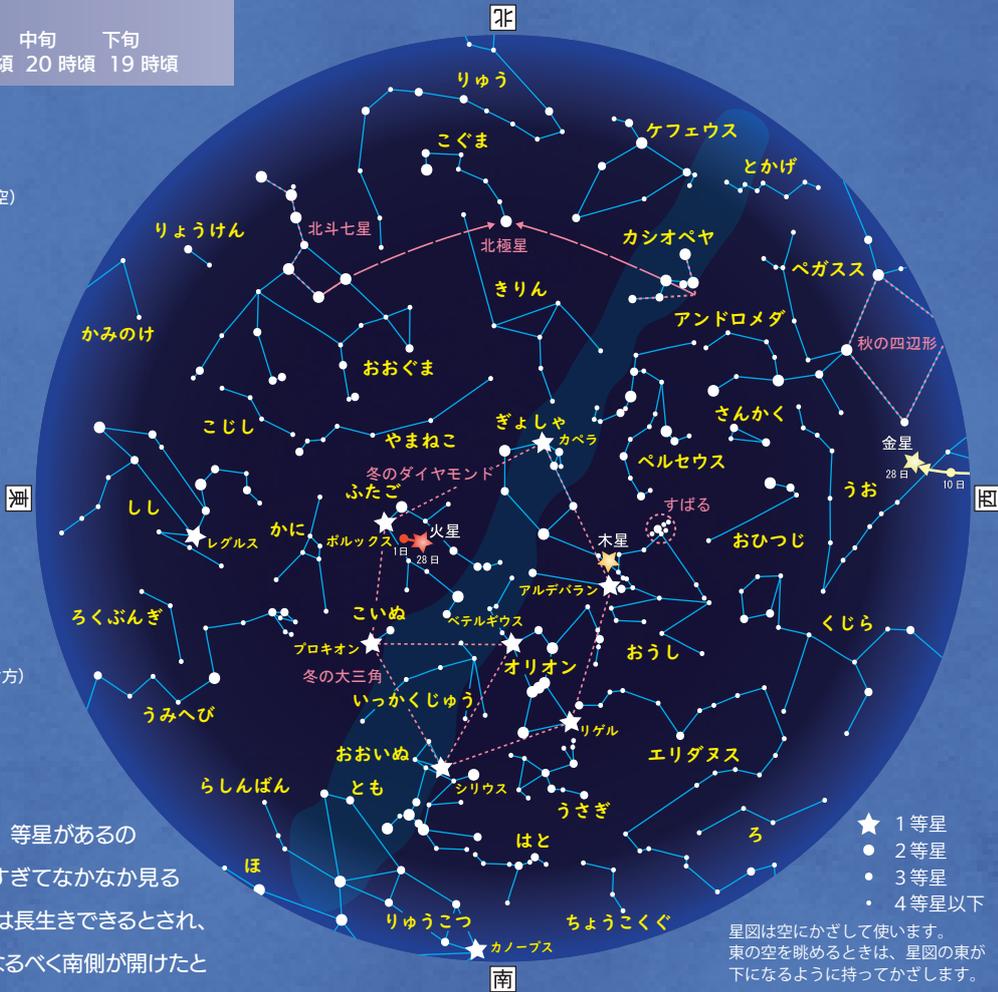
上旬 中旬 下旬
21 時頃 20 時頃 19 時頃

天文現象など

- 2/1 土星食 / 月と土星が並ぶ (夕方・西の空)
- 2/2 月と金星が並ぶ
- 2/5 上弦 ☾
- 2/6 月とすばるが並ぶ
- 2/7 月と木星が並ぶ
- 2/9 月と火星が並ぶ
- 2/10 月とポルックスが並ぶ
- 2/12 満月 ●
- 2/12,13 月とレグルスが並ぶ
- 2/15 金星が最大光度 (-4.9等)
- 2/17 月とスピカが並ぶ (23時~明け方)
- 2/21 下弦 ☽
- 2/21,22 月とアンタレスが並ぶ (午前3時~明け方)
- 2/28 新月 ○

星空ワンポイント

右の星図の下の方(南)、ぎりぎりのところにひとつ1等星があるのにお気づきですか? 「カノープス」というこの星、低すぎてなかなか見ることができません。そのため中国では、この星を見た人は長生きできるとされ、「南極老人星」とも呼ばれているおめでたい星です。なるべく南側が開けたところで、みなさんも探してみませんか。

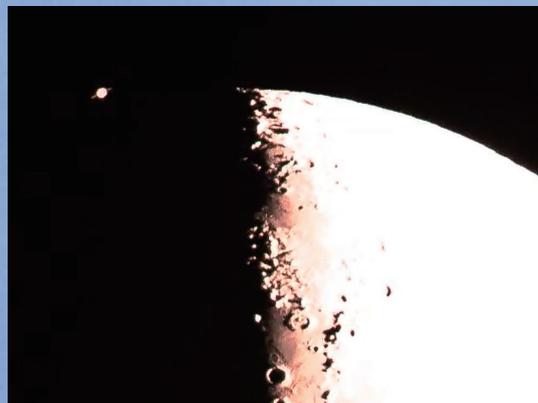


星図は空にかざして使います。東の空を眺めるときは、星図の東が下になるように持ってかざします。

今月の一枚

土星食

土星食とは、土星が月と重なって隠される現象のことです。今月の一枚は、2024年12月8日の土星食を記録した映像から、土星が月に隠される「潜入」の直前の瞬間を切り取ったものです。夜間に日本の広い地域で土星食が見られたのは2002年以来、約22年半ぶりのことでした。今月1日にも北日本や西日本で土星食が見られますが、真昼の時間帯なので観測はなかなか難しそうです。右の画像では、月が土星と比べて大変明るいために白飛びして(=真っ白になって)いますが、明るさを合わせて撮影された土星の方をよく見ると、丸い形に加えて細くなってほぼ串のような環の形も見えています。夕方の空に輝く土星、そして「環のある」土星は今月いっぱいでした見納めです。ぜひご覧ください。



科学館屋上で撮影 (撮影: 多摩六都科学館ボランティア会)

大人向けプラネタリウム ノチウ〈冬〉

アイヌ民族に伝わる独自の星名・星座をご紹介します『ノチウ』。今回は3年ぶりに〈冬〉をテーマにお話しします。アイヌの人々が暮らしてきたのは、長く厳しい冬が続く地域。凍るような空に輝く星々にどんな名を付け、何を見立てたのでしょうか。北の大地へ赴き、季節の星と見ごろの惑星をながめます。

投影日: 2月26日(水) 13:10~
対象: 中学生~大人 (小学生以下は入場不可)



2025.2

☐ …休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8 観望会
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 おもいやり	20	21	22 特別試写会
23 講演会	24	25	26 大人向け	27	28	

各日のイベント・投影の内容や参加方法については当館 web サイトまたはロクトニュースにてご確認ください

